



命どう宝（ぬちどうたから）

10月17日（木）

沖縄語で「命こそ宝」という意味の言葉。平和祈念公園にある石碑（引用文中の写真）に刻まれた言葉です。

以下ウィキペディアよりの引用です。

沖縄県出身の画家で作家の山里永吉（1902年-1989年）が1932年（昭和7年）に書いた戯曲『那覇四町昔気質』が原典とされ、同戯曲の幕切れに「いくさ世（ゆ）もしまち みろく世（ゆ）もやがて 嘆（なじ）くなよ臣下（しんか） 命（ぬち）どう宝」（争いの世が終わり、やがて弥勒仏の世が訪れる。臣よ嘆かないでくれ、命あつての物種だ。）という琉歌を詠む台詞がある。この琉歌の作者は同戯曲を書いた山里永吉



とも、同戯曲の舞台で尚泰王を演じていた俳優の伊良波尹吉とも言われている]。

沖縄戦を舞台とした「命どう宝 — 響け平和の鐘」と題する反戦劇は、戦争を訴える演劇として中学校の文化祭などをはじめ、県内さまざまな場所で演じられている。命どう宝の家-伊江島にある。阿波根昌鴻が、自分の土地を売った資金をもとに開いた反戦平和資料館

修学旅行中に起こった台風による被害は、まさにこの言葉の意味を重く伝えます。戦争であっても災害であっても、人の命が大切であることに変わりはありません。争いや災害のない世の中であって欲しいと思います。



写真左：「平和の礎（いしじ）」と世界に向かって平和の波を送る泉

写真左下：「平和の礎」の説明を聞く生徒達

写真右下：公園から太平洋を臨むと、綺麗で穏やかな海が広がっています。

